

**JOCジュニアオリンピックカップ**  
**第43回全日本中学生ホッケー選手権大会**  
**【 競 技 運 営 規 程 】**

1. 大会運営           本大会の運営は、(公社)日本ホッケー協会競技運営規定ならびに第43回全日本中学生ホッケー選手権大会実施要項による。
2. 競技規則           (公社)日本ホッケー協会2013年度6人制ホッケー競技規則による。
3. 試合時間           試合時間は、前半15分・後半15分とし、前後半の間に5分間の休憩をおく。
4. 時 間               試合時間は、ジャッジ席で管理する。
5. 競技方法           (1)男女とも、3チーム総当りの予選リーグを行い、上位各2チームが決勝トーナメントに進出する。(予選リーグにおける延長戦はなし。)  
(2)決勝トーナメント1・2回戦において規定の時間内に勝敗を決しないときは、延長戦は行わず、試合終了後ただちに「7」に定めるペナルティーシュート戦を行い、勝敗を決する。  
(3)決勝トーナメント準決勝より、規定の時間内に勝敗を決しないときは5分間の休憩後、延長戦を行う。時間は各3分よりなる前後半とし、両チームは前後半の間にサイドチェンジをするが休憩はおかない。この延長戦は、いずれかのチームが得点した時をもって終了とする。なお、この規定の時間内に勝敗を決しない時は「7」に定めるペナルティーシュート戦を行い、勝敗を決する。
6. 予選リーグの順位決定方法           (1)勝ち点の多いチームを上位とする。勝ち点は、勝利チームに3点、引き分けチームに1点、勝敗チームに0点をそれぞれを与える。  
(2)勝ち点が同点の場合は、下記の順序・方式により順位を決定する。  
          リーグ戦における「得失点差」(「総得点数-総失点数」の差が多いチーム。)  
          リーグ戦における「総得点数」の多いチーム。  
          上記においてなお同点の場合、「7」に定めるペナルティーシュート戦により順位を決定する。なお、同位チームが3チームの場合のPS戦は、同一チームが連勝したとき、そのチームを1位とする。
7. ペナルティーシュート戦(PS戦)           (1)両チームの主将は、レッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた、エントリー済みの選手の中から3名の選手(ストローカー)と1名のゴールキーパーを指名する。  
(2)両チームの主将によりトスを行い、先攻・後攻を決める。その後両チーム3名ずつのストローカーにより交互に攻防を1巡行い(計6本)、得点の多いチームを勝者とする。  
(3)(2)の方法によって勝敗の決しないときは、「サドン・デス方式」、すなわち両チームが同数のシュートを行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方法により、再PS戦を行う。このときは、最初先攻のチームが後攻となり、選手はプレー不可能な者を除き各チームは最初と同じ選手で行う。ただし、順序は変えてもよい。
8. 試合の中断と追試合           天候のやむをえない理由により、試合が中断された場合は、下記により試合を再開する。  
(1)追試合の場合は、中断した時の得点で残り時間のみを行う。  
(2)追試合の期日・競技場・審判員等は、これを変更することができる。
9. チームベンチ           チームベンチには、エントリーされた者以外は入ることができない。(ただし、学校長3年生等TDの許可を受けた者はこの限りではない。)
10. フィールドへの立ち入り           試合中、選手にケガ等が起こった場合は、ベンチ内にいる手当てをする者および監督・コーチどちらか1名が、当該審判員の許可を得てフィールド内に入り、手当てを行うことができる。(コーチングは禁止)

## 11. 選手の交代

- (1)各チームは、試合中随時どの選手でも交代できる。但し、ペナルティーコーナーが与えられている間は、誰も交代できない。(負傷した守備者側のゴールキーパーは除く)
- (2)一時退場(イエローカード:3分以上)させられた選手に対する交代は、当該選手の退場時間中は許可されない。
- (3)選手の交代は、ジャッジ席のその意を伝えた後、ジャッジ席前方のセンターライン付近で行われる。その際、時間の停止は行わない。但し、コールキーパーおよび負傷者の交代については、審判員の管理下で行われる。

## 12. 平成25年度レギュレーションルール

- (1)試合開始時における手順をブリ (3回)からセンターパスとする。
- (2)「オウンゴール」については、採用しない。
- (3)フリーヒット(ボールをしっかりと静止してからプレーをはじめること)
  - ・ヒット、プッシュ、フリック、ドリブルに加えスクープではじめることができる。
  - ・フリーヒットにおいて、ドラッグ(引きずり)を行ってはならない。

## 13. 確認事項

- (1)ユニフォーム(大会参加申込書に記載されたもの)は必ず2着用し、グラウンドへ持参すること。
- (2)選手はすね当てを必ず着用し、ストッキングを上まであげて履くこと。
- (3)キャプテンは、キャプテンマークをつけること。
- (4)アンダーウェアを着用する場合はユニフォームと同色にする。
- (5)マウスガードについて、今年度より義務化とする。(GKは義務対象外)
- (6)ゴールキーパーは、ケガの防止のため装具を完全に着用すること。アンダーパッドについても必ず使用すること。
- (7)チームベンチは、〔競技日程表〕の左側のチームが赤い印のついたベンチとする。
- (8)試合開始15分前にリングパスおよび服装・装具の点検を実施するので、次試合のチームはチームテント横で待機すること。エントリーフォームは30分前にジャッジ席へ提出すること。
- (9)ペナルティーコーナーの保護具は試合開始前に必ずTOに使用確認すること。
- (10)応援者は、会場指示に従うこと。(監督は事前に保護者に説明すること)
- (11)試合中、乱暴なプレーや審判員に対する誹謗等、スポーツマンらしくない行為等は、厳に戒める。(監督・応援団についても同様。)
- (12)選手が負傷により出血したとき、頭・顔・心臓付近にボールが当たったときは審判員が負傷の状況を確認し、退場を命じたときは直ちに退場すること。止血処理と傷の手当てが完了するまでは、再出場できない。(2分以上の安静)
- (13)棄権または試合中に退場・ケガ等により、1チームの人数が3名以下になった場合は、その試合は没収試合とする。

予選リーグにおいて没収試合があった場合は、そのチームの試合をすべて没収し、残りのチームのみで順位を決定する。

決勝トーナメントにおいて没収試合があった場合は、相手チームの不戦勝とする。
- (14)「負傷・事故報告書」の提出を課された者は、医師による治療後、負傷事故報告書をTOまたはTDに提出する。本人への健康確認のうえ、次試合の出場を認める。試合が無い場合は、「負傷事故報告書」を大会事務局に郵送すること。
- (15)全日本中学生ホッケー選手権大会において、抗議制度は無い。
- (16)試合終了後、両チームの監督は、ジャッジ席で署名すること。
- (17)その他、本規程に定めのない事項または、不測の事態が発生した場合は、TDの指示に従うこと。